

耳の疾患

急性中耳炎

鼓膜の内側の空間である中耳に炎症が起きた状態で、乳幼児の急性感染症の代表的なものです。子どもの耳管は大人に比べて太く短いため、生後6カ月～2歳児によく起こります。近年、耐性（薬が効かない）肺炎球菌、耐性インフルエンザ菌の頻度が急増しています。そのため、中耳炎が重症化したり、長引く場合も増えてきており、最初の治療が重要となってきます。

慢性化膿性中耳炎

以前より中耳炎を繰り返していたことがあり、炎症により鼓膜に穴があいた状態です。穴があいていることで聴こえが悪くなります。また時より細菌感染を起こすと耳の中から膿が出てきて、寝ていると枕が濡れてしまったりします。場合により、鼓膜形成術を施行し、耳だれの停止、聴力の改善を図ります。

外耳道炎・湿疹

耳掻きをよくする方がなりやすい病気です。耳掻きの刺激により外耳道(耳から鼓膜までの道)の皮膚・粘膜に湿疹ができると耳がかゆくなります。そこに細菌感染などが起こると耳が痛くなり外耳道炎となります。痛みは強く、熱がでる場合もあります。

耳垢栓塞

耳垢（耳あか）がかたまりになって、耳の穴を塞いだ状態です。その側の耳に軽度から中等度の難聴がおこります。放っておくと、その刺激で耳の孔の皮膚が炎症をおこし、外耳道炎を合併し、痛みが出てきます。

外傷性鼓膜穿孔

鼓膜に機械的刺激（みみかき、綿棒など）が加わった結果、鼓膜に傷がついて穴が開き、出血、難聴、耳鳴りなどが起きます。多くは自然に鼓膜は閉鎖し症状が軽快しますが、まれに耳小骨連鎖の離断などが起きていると鼓膜が閉鎖しても難聴は治らず、将来的に手術が必要になってきます。

耳管解放症

中耳腔と鼻の奥に存在する上咽頭は、耳管と呼ばれる管でつながっています。通常、この管はふさがっていますが、あくびや物を飲み込む時に開き、中耳が換気され外界と圧が平衡状態になります。この調節機構がはたらかず、耳管が常に開いた状態になると、耳閉塞感、自声強聴などさまざまな症状が出現します。体重減少や妊娠、経口ピルの服薬などが誘因になります。

内耳炎

内耳炎は、主に中耳腔の炎症が、中耳と内耳を隔てている2つの窓（正円窓と卵円窓）を通して内耳に及んだものです。しかし、時には真珠腫性中耳炎によって内耳の骨が破壊され、そこを通して中耳腔の炎症が内耳に及ぶものや、髄膜炎が原因で起こるものなど、他の経路から起こるものもあります。

急性乳様突起炎

耳介の後ろを指で触れると、下向き三角形の硬い骨があり、これが乳様突起です。この骨の中には、蜂の巣状の細かな空洞が多数存在します。この空洞を乳突蜂巣といい、ここに炎症がおこり化膿する病気です。

外耳道異物

外耳道に異物が入った状態です。異物は水、耳垢、毛、虫、などです。子供の場合、いたずらで入れてしまうことがありますので、注意してください。

外耳道湿疹

外耳道への刺激などで外耳道皮膚が炎症を起こすと湿疹が出来て痒くなります。痒みが強いと、さらに刺激を繰り返すことになることにより、湿疹が慢性化し、皮膚の抵抗力が弱くなります。そのため、カビが生えたり、炎症が長く続くこととなります。もっとも大事なことはなるべく我慢してかかないことと、外耳道を清潔に保つことです。

航空性中耳炎

離着陸の際の急激な気圧変化によって中耳炎症状を起こしたものです。特に着陸の時に多いです。耳痛から始まり、炎症による聴力低下を起こすことがあります。つばを飲んだり、大きく口を開けたりすると、耳管が開き中耳の換気を行いますので、これを行ってください。風邪を引いたり酒を飲んだりすると、耳管がむくむため中耳炎を起こしやすくなります。また、睡眠中は耳管が開かないため、着陸時は寝ないようにしてください。それでも起こってしまったら、耳鼻咽喉科を受診してください。治療は急性中耳炎、滲出性中耳炎の治療と同じになります。

老人性難聴

聴こえの神経の機能低下です。年齢と共に高音部の聴力が落ちてきて、だんだん聞こえが悪くなります。耳鳴りを伴うことが多いです。音の認識力も低下してくるため、音は聞こえるが話の内容が分からないという事が起きてきます。年齢変化であるため、聴こえの神経を回復するのは困難です。日常生活に不自由が出てくれば補聴器の適応となります。目が悪ければ、誰でも眼鏡をかけるように、聴こえが悪い時は補聴器を使用した方が日常生活を快適に送れます。補聴器は耳鼻咽喉科で診察を受けて、自分にあったものを作成するのが良いと思います。高いものから安いものまでいろいろありますので、一度ご相談ください。

騒音性難聴

騒音の大きな職場、ヘッドホンステレオの使い過ぎ、などの環境が長く続くと、聴こえの神経の障害が進行し、耳の聴こえはだんだん悪くなります。高い音の一部が聴こえにくくなりますが、耳鳴で気付くことが多いです。一度障害を受けた聴こえの神経を回復するのは困難ですので、環境を改善し、予防することが大事です。

突発性難聴

突然、聴こえが悪くなる病気です。通常は片側の耳の塞がった感じで気が付くことが多いようです。内耳にある聴こえの神経の障害で起こりますが、原因はまだよくわかっていません。めまいを伴うこともあります。なるべく早く治療を開始した方が回復する可能性が高いと言われてしますので、すぐに耳鼻咽喉科を受診することをおすすめします。聴力検査を行い障害の程度を調べ、壊れてしまった聴こえの神経を改善するため、ステロイドの点滴を行います。

耳鳴症

聴こえの神経の障害がある場合に起こります。急性の聴こえの障害（突発性難聴、メニエール病）、慢性の聴こえの障害（老人性難聴、騒音性難聴、慢性中耳炎、中耳真珠腫）などが原因となることが多いですが、原因不明のものも多いようです。ビタミン剤、安定剤、漢方薬などの内服治療が中心となります。一般的には高音部難聴で、'キーン' 'ジー' という音、低音部難聴で、'ゴー' 'ボー' という音が聴こえることが多いようです。